



広報

いせん

No.322

今月の主な内容

特集「伊仙町企業誘致促進施設落成式」について	2P
平成28年度施政方針（広報用ダイジェスト版前編）	3～5P
特集2「生涯活躍のまちシンポジウム IN 東京」	6P
「第49回戦艦大和を旗艦とする戦没将士慰霊」	7P
「卒業（園）式・入学（園）式」	8P～9P
行事「移住・定住インタビュー」	10P
お知らせコーナー	11P～18P
伊仙町商工会の窓	19P
わが町のアイドル	20P

全世帯配布 編集・発行 伊仙町役場 企画課（地方創生推進室）
〒891-8293 鹿児島県大島郡伊仙町伊仙1842
TEL 0997(86)3111（内線12） FAX 0997(86)2301
URL <http://www.town.isen.kagoshima.jp/>

2016年(平成28年)5月号

誘致企業「日本マルコ株式会社」地方創生の先駆けとして！ 10年後に100人の雇用確保へ



(写真) 平成28年3月29日 (火)

伊仙町企業誘致促進施設落成式で、テープカットを行う。大久保町長、日本マルコ株式会社 小坂橋社長（右から3番目）と関係者一同。



特集

☆わが町の取り組みや動きを
特集記事にてご紹介。

企業誘致

○伊仙町企業誘致促進施設完成！落成式・祝賀会開催。

本町が推進していましたが、航空・宇宙関連機器メーカー日本マルコ(株)(本社・神奈川県横浜)の企業誘致について、この度糸木名地区に「伊仙町企業誘致促進施設」が完成し、3月29日に施設完成を祝した落成式及び祝賀会が盛大に開催されました。

当日は、落成式並びに祝賀会の開催にあたって、町当局よりご招待させて頂いておりました、地元選出県議会議員・本町議会議員の皆さんをはじめ、多数のご来賓の皆さんに公私ともに多忙な折、ご出席いただきました。

また、当日は同施設にて操



業予定で、本町と企業立地協定を締結された日本マルコ(株) 小坂橋 博行 社長も遠路はるばるご出席いただき、同工場における今後の目標を示していただきました。

○若者の雇用の場として、10年後に、最大100人の雇用を目標。



日本マルコ(株)(本社・神奈川県横浜)においては、航空機や人工衛星で使われるコネク

タやハーネスなどの部品の製造・販売を手掛け、最近では国産初の旅客機MRJ(三菱リジヨナルジェット)の量産に向けた部品を受注している企業ですが、奄美での事業所開設は、与論島に続いて2か所目。今回の事業所開設の経緯については、若者の雇用の場の確保、地域活性化施策の一環として、本町が同企業の誘致に着手し、日本マルコ社長のご英断により、昨年10月に県産業立地課立ち会いのもと、町と立地協定を締結するに至りました。

そのなかで、本町におい

て過疎対策事業債を活用した「企業誘致促進整備対策事業費」に関する予算及び契約議案を、議会それぞれ議決していただき、今年2月に貸工場が晴れて完成いたしました。

今回の貸工場の完成にあたって、日本マルコ(株) 小坂橋 博行 社長からは、「4月に操業を開始し、当初の地元雇用から順次募集を行い、10年度を目途に、パートを含め100人規模の雇用を目指す」ことが示され、このことから、本町の目指す「若者の



雇用の場の確保」並びに「地域活性化施策」がいよいよ実現する運びとなりました。

○大久保町長「地方創生の先駆け」として取り組む。

今回の事業の推進にあたって、大久保 明 町長からは、「地元とともに、企業が成長し、さらに地方創生の先駆けとして、地方を復活させるという大きな目的を持ちながら、雇用が生まれ、発展す

○町民各位へ



ることに全力で取り組み、改めて力強い決意が示されました。

町民の皆様におかれましては、今回の企業誘致に係る施策の推進にあたって、並々ならぬご理解とご協力を多方面から賜り、深く感謝申し上げますとともに、今後の工場稼働にあたっては、雇用問題と地域活性化の両面において、費用対効果を得られるよう、企業側と連携を図ってまいりますので、地元企業として更なるご支援・ご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

企業誘致促進整備対策事業
貸工場概要
建設費：5億2,782万円
(用地購入・造成費含む)
構造：鉄骨平屋造り
面積：床面積1,242㎡
※有償で貸出。

平成28年度施政方針

(前編)

はじめに

平成28年度の町政運営に関する基本的な考えを申し上げます。

日本は2008年をピークとして人口減少局面に入っており、かつ若い世代の東京圏

への一極集中を招き、地方の人口減少は若い世代を中心に著しい状況となっており、この状況を打開するため、平成26年11月に国は、急速な少子高齢化の進展、人口減少に歯止めをかけるとともに、東京圏への人口の過度の集中を是正し、地域での住みよい環境を確保して、将来にわたって活力ある日本社会を維持していくことを課題として、「まち・ひと・しごと創生法」を制定しました。

その取り組みとして本町では、伊仙町の個性を生かして自立できるようICT等の最新技術を活用し、より先を見通したイノベーションを起こすべく『まち・ひと・しごと創生伊仙町総合戦略』を策定しました。

さらに、地方における安定した雇用を創出するための企

業誘致、基幹産業の農業力強化を進め、地方への新しい人の流れをつくり定住促進に繋げるとともに、若い世代の結婚・出産・子育ての切れ目のない支援を行い、長寿と子宝の双方が、相乗効果をもたらすまちづくりを推進します。

また、本町の財政については、年々増え続ける公債費で大変厳しい財政状況でありますが、「中長期財政計画」に基づき、町民ニーズや社会経済情勢の変化等を見極め、事業の必要性、効果、優先度の観点から厳選し、重点的な投資を行うなど時代を的確に捉えながら目標を明確にし、将来的に持続可能な財政構造の確立を推進します。

以上を踏まえ、主要施策を述べて参ります。

1. 伊仙町における安定した雇用を創出する

①伊仙町農業振興計画の推進

平成26年度に、「農家の所得向上」や「夢の持てる豊かな農業生産」を目的に、平成27年度・31年度を計画期間とする「伊仙町農業振興計画」

を策定しました。本計画においては、「強く、高付加価値のある伊仙町農業の構築」を図ることを基本理念に、「人づくり」「環境づくり」「情報・技術の向上」を施策の基本方針としています。

地域における持続的な農業を確実に行うためには、担い手の育成・確保や将来の伊仙町農業を担う新規就農者の育成・支援が極めて重要です。その為に、総合的な人づくりのための中核となる「農業支援センター」を整備し、ここを拠点として、旧徳之島農業高等学校の施設を利用するなど、農業人材育成のために、あらゆる支援を講じます。

加えて、営農計画と土地の貸し借りに関する意向を調べるための農家全戸調査を実施し、今後の「人・農地プラン」見直しや町農業振興計画推進に資する基礎資料として活用します。また、平成26年度から始まった「農地中間管理事業」に関しては、農地の出し手に対する「機構集積協力金」を活用して農地の流動化を促進するなど、制度の運用を本格化させ、担い手への土地の集積を図ります。

また、各地区における農業の担い手に関わる将来ビジョンの話し合い活動や「青年就

農給付金」の事業説明を重ねるなど、新規就農者の育成に力を入れます。

さらに、「認定農業者連絡協議会」「4Hクラブ」、及び「担い手女性グループふあーみんぐ」など組織をより活性化するために、役員会での話し合いやメンバー間の意見交換・他地域との交流を進め、土作り・技術向上・情報共有などに対する研修会を開催し、実践的な組織作りに繋げて行きます。

この振興計画に基づきながら、各種の施策を積極的に実施し、農業生産額50億円の達成並びに農家の所得アップを図って参ります。

②6次産業化への取組

平成26年度から稼働を開始した「伊仙町特産品加工工房」を中心に、伊仙町の農産物を原材料とした加工品開発を行い、特産品として付加価値の高い商品開発を進めていき、また百菜を拠点に、長寿の食文化と、地産地消の取組が進んでいる農作物を互いに結びつけ、料理教室を開催し、若年層島民に対し調理方法を伝承していくと共に、観光客に対して特産品料理の体験型エントーテインメントを提供します。更にはこの料理教室に

より、島民と観光客とのコミュニケーションや、島民同士のコミュニケーションを育む機会を更に増やすことで、顧客接点の新たな場とし、ICT技術を活用して島外へ積極的に発信して新たな長寿食をブランド化し、農家の売上げ向上を図ります。

また、農商工連携と6次産業化を引き続き推進し、より付加価値の高い農産物の販売手法を探ります。

③企業誘致

離島という地理環境、人口7,000人規模の本町において、雇用の確保は定住促進のための重点課題である。徳之島では高校卒業と同時に進学・就職のためにほとんどの生徒が島を離れ、またほとんどの若者が島外で就職するのが現状となっており、地域産業、特に地場産業などを活かした企業支援、島外からの企業誘致などで、規模の大小にかかわらず、地元で就職できる体制づくりが急務となっています。

本町の就業構造を具体的に挙げると、農業を中心とした第1次産業が基幹産業であり、また、これらの基幹産業を持続させるため、新規就業者や担い手の確保、認定農業

者への支援、畑地帯整備・畑かん整備事業を推進するなど、あらゆる施策を講じて雇用に繋がるように努めてきました。しかしながら、労働条件が極めて厳しいことや気候変動による農産物の被害、販路開拓など、あらゆる課題が露呈し、安定した所得が望めないのが現状です。

このことから、島外からの安定した雇用を提供できる経営基盤を持った企業（精密機器業・製造業・食品加工業・再生可能エネルギー業等）へ伊仙町の魅力をアピールして誘致していきます。

また、地域の特性を活かすという観点から、基幹産業である第1次産業に相乗効果をもたらすため、6次産業の確立を核とした企業誘致を積極的に行い、そこから波及する企業間のシナジー効果を促進することで、地域経済活性化への活路を見出し、最終的にそれらすべてを雇用に繋げていきます。

今までの誘致活動により、航空・宇宙産業の部品を手がける製造業企業「株式会社日本マルコ」の伊仙町進出が決定し、100名以上の雇用の実現が見込まれており、同社の工場立地地域である糸木名をものづくり集落と位置付

け、関連企業の誘致も推進していきます。

2. 出生率日本一の伊仙町ならではの、結婚・出産・子育ての環境をつくる

本町は、長寿・子宝の町として注目されており、この誘因ともいえる地域力を生かした健康的な地域づくりを目指します。また、平成26年度に策定した伊仙町高齢者福祉計画・介護保険事業計画に基づき、必要なサービス量確保のために健全に運営し、医療費適正化の取り組みを進め健康なまちづくりを目指し、安心して地域で妊娠・出産・育児、また今後とも消費生活相談窓口の機能を維持し、弁護士による無料法律相談会を継続して行い、町民の生活に切れ目ないサービスや見守りが行き届く町づくりを庁内関係部署や関係機関と連携し推進します。

①結婚・出産・子育て環境整備

伊仙町町内に「働く場所」「住む場所」が不足していて、若い世代の居住が少なく男女の出会いの場があまり無く、未婚者が多い状況であることから、「雇用の確保、移住支援

を行い、島に根を張って生活していく結婚適齢期の男女を増やし、結婚につながる出会いの機会を増やすことを目指します。

妊娠期支援においては、妊婦のニーズを把握し、マタニティ教室の内容を見直しします。母子栄養食品（牛乳券）支給の機会を利用し、必要に応じた個別指導を実施します。すべての妊婦が安心・安全に出産が迎えられるよう支援していきます。

また、出産時の祝福、児童福祉の向上を目的として「子育て支援金」事業及び、かごしま子育て支援パスポート事業等を引き続き実施します。

また、平成27年度から施行された、「子ども・子育て支援法」に基づき、「子ども・子育て支援会議」を立ち上げ、共に基本理念に従い、子どもの成長を支える環境づくりに邁進し、地域社会の中で一人一人の子ども達が健やかに成長していける社会を造り出して行くように努力します。

②教育の充実

学校教育においては、子どもの学力向上は喫緊の教育課題であります。

「子どもたちに確かな学力をつけさせたい。」そして、自

分が生まれ育った徳之島、伊仙町を誇り、島を愛し、ふるさとの自然・歴史・文化・島の産業である農業を守り育てようとする人材を育成していきたいと思っています。

また、本町の目指す教育として、「生きる力」の育成を基本とし、知識を一方的に教え込む教育から、子どもたちが、自ら学び、自ら考える教育への転換を目指し、知・徳・体のバランスのとれた教育を展開し、豊かな人間性とたくましい体を育んでいく子どもの育成に取り組んでいきます。

各学校においては、基礎・基本の定着に向け、個に応じた指導及び教職員の指導力向上を図ると共に、特別支援教育にも積極的に取り組み、子どもたちにとって、より有効な支援方法を考えたいと思います。

具体的な取り組みとして、幼稚園・小学校・中学校と家庭、地域が一体となって学力向上、生徒指導、健康の保持増進等の課題について研究協議し、成果を日々の教育活動に反映させていきます。

町内の子どもたちの可能性を大いに引き出し、伸ばすための努力に終わりはありません。

そのためには、まず子ども

たちの「学ぶ意欲」を向上させることが重要であると考えています。その一環として今年度、小・中学生を対象に、「漢字検定」「英語検定」を実施することになっています。

特色ある教育活動においては、「島唄・島口・美ら島運動」を重点的に実施し、郷土の歴史、文化への関心を高め、郷土意識の醸成を図ります。校区住民等を講師に迎えて、サトウキビやジャガイモの栽培、黒糖作り等の体験活動によって、土に触れ、自ら生産する喜びと先人に学ぶ姿勢を体験させることにより、故郷に自信と誇りが持てるようにすると共に、自ら気づき、考え、実行する「生きる力」の育成を図ります。

道徳教育においては、あらゆる教育活動や日常生活を通して、生命を大切にすることや他人を思いやる心、善悪の判断などを折に触れて自然に身につけていくような流れを作っていくと考えています。

「子どもは親の背中を見て育つ」と昔から言われているように、知識だけでなく、大人が範を示し、子どもが生き方の手本にするようになれば素晴らしいと思います。

また、心の教育を中心とした生徒指導がますます重要性

を増しています。いじめ、不登校の早期発見、解消のために各学校の生徒指導体制を充実させ、教職員一人一人の生徒指導力を向上させると共に、本年度も「スクールカウンセラー」や「スクールソーシャルワーカー」を定期的に配置して児童生徒一人一人が安心して過ごせる環境づくりを努めます。

外国語教育においては、招致外国青年（A.L.T.）の活用により、小学校は高学年を中心に楽しみながら英語に親しむ授業を実施しています。中学校英語科における授業についてもA.L.T.を積極的に活用し、生徒のコミュニケーション能力の育成に努めています。

幼稚園教育においては、やさしく見守りながら集団生活に適応できるようにきちんと育てることが大切だと考えます。

幼児であつても、分かるように伝えることが親の役目です。幼稚園では、先生方によって、丁寧な指導がなされています。子どもが幼稚園で自己を発揮し、生き生きと生活するためには、家庭との連携を図り、幼稚園が安全で安心して心地よく過ごすことができる場になっているこ

とが大切です。

また、幼稚園におきましては、子育ての一環として今年度も預かり保育を実施して就業支援をおこなっていきます。

「開かれた学校づくり」においては、学校評議員制度と毎年11月に実施している「学校を見に行こう週間」を基軸に老若男女が交流の場として集える地域に根ざした学校づくりを推進します。

町内の学校の6割が複式学級であり、少人数指導の良さを生かした「分かる授業」の推進に努めています。今年度、地方創生で大型ワゴン車を購入して、小学校間の交流学习を積極的に推進し、他校との親交を深めていきます。

また、毎年恒例となつていた子ども議会と今年度より実施する「ほーらい夢語り大会」を隔年おきに実施して、子どもたちに世界に羽ばたくでっかい夢を堂々と語れる子どもを育てるために町民文化祭の日に実施します。

教育行政は、地域の未来を担う人材の育成と考え、2年目を迎える第5次伊仙町総合計画に挙げられた、「教育力のある環境づくり。豊かな心・確かな学力・たくましい体」を実現すべく、点検と評価を行いながら、行政機関

としての質の向上と方針・施策の改善を図り、さらに開かれた教育委員会として、町民の声に耳を傾け教育行政を充実させていきます。

社会教育行政につきましては、鹿児島県教育振興基本計画である「あしたをひらく心豊かでたくましい人づくり」を推進するため、生涯学習の観点に立ち、本町生涯学習テーマを『地域のよさ（人・自然・文化）を再発見・再確認』つなぐ・つどう・まもる・つたえる・おこす』と定め、人間性豊かでたくましく生きる町民の育成と教育・文化・スポーツの振興を図ります。

その具体策として、社会教育団体をはじめとする関係機関と連携を深め、地域人材の発掘と活用を活性化させ、町民が生涯を通じて自主的学習の機会が得られるよう学習の機会を提供します。

成人教育については、PTA連絡協議会や地域女性連等社会教育団体が活発に活動できるように支援するほか、人権教育をはじめとする様々な学習機会を提供していきます。また、公民館講座においても地域人材を活用した講座を開設し、学習の成果を発表できる場づくりに努めます。青少年教育については、本

町の良さである教育的素材（自然・文化・人材）を活用した体験活動を充実させ、郷土に誇りを持てる青少年の健全育成に努めます。特に、様々なリーダー研修を一本化し、年間を通してのリーダー育成を展開します。

読書推進においては、昨年度に引き続き毎月第1土曜日に図書室でのおはなし会の開催及びブックスタート事業を継続するほか、季節に合わせた読み聞かせ会の開催、新着図書案内や希望図書調査及び各学校への移動図書館を実施するための準備を進め、読書推進に努めます。

社会体育関係につきましては、第57回大島地区大会（空手道大会）が本町で開催されます。その他の競技においても関係団体との連携を強化し、競技力の向上と競技者増加を目指します。

また、第57回日本復帰記念大島地区駅伝競走大会が徳之島町で開催されるにあたり、男女の出場と昨年度の成績を踏まえ、上位入賞を目指して年間を通じた練習会を実施します。

競技力の向上のみならず、スポーツ少年団及び部活動等の指導者及び保護者を対象とした指導・支援研修会やスポ

ーツに関する講座を開設し、町民の健康づくりやスポーツ少年団・各種スポーツ団体の活動を支援します。

文化財保護行政については、史跡徳之島カミヤキ陶器窯跡の調査・研究を継続的に進めながら、史跡の保存・公開活用に向けた整備計画の策定に取り組みます。また、昨年度総括報告書が刊行された面縄貝塚の国史跡指定に向けた各種業務を推進します。こうした重要な文化財の価値をこれまで以上に広く発信し、町民の皆さまとともに、文化遺産、自然遺産を活かしたまちづくりに向けた具体的計画を策定していきます。

伊仙町長 大久保 明

※前編のみ掲載しております。後編は次回7月号にて掲載いたします。

※原文を閲覧希望の方は、企画課地方創生推進室（広報担当 86-3111 内線12番）までお問い合わせください。

特集

～わが町の地方創生に係る取り組み～

報告 伊仙町役場企画課 地方創生推進室

伊仙町生涯活躍のまちシンポジウムin東京開催

○今回の東京でのシンポジウム開催は、一自治体として前例のない取り組みとして、国や県、マスコミを含めて大きな注目を浴びることができました。

平成28年2月27日(土)に東京千代田区の全国町村会館においてシンポジウムを開催しました。シンポジウムは伊仙町の高齢化、ならびに若年層の人口流出とそれに伴う人口減少が大きな課題となっているため、首都圏在住の移住検討者を対象に実施したものです。



石破茂地方創生担当大臣



河村建夫衆議院議員運営委員長



増田寛也元総務大臣

当日は、満席(300名)の大盛況で、石破茂地方創生担当大臣(写真左)、河村建夫衆議院議員運営委員長(写真中央)、増田寛也元総務大臣(写真右)も駆けつけ、伊仙町の取組に対する期待を述べられました。



養老孟司東京大学名誉教授



三菱総研究の主席研究員 松田智生氏



東京大学客員教授 小野寺浩氏

養老孟司東京大学名誉教授(写真左)が「現代版参勤交代の復活と奄美・伊仙町」で基調講演を行い、感覚を磨くためには都会に住むだけではなく、一定期間田舎に住むことが重要だと提言しました。また三菱総研究の主席研究員松田智生氏(写真中央)は「新しい人の流れを創る－生涯活躍のまち」の演題で、元気な高齢者を呼び地域の活性化につなげるとともに若い人たちの雇用にも活かしていくことの重要性を唱えておりました。

パネルディスカッションでは東京大学客員教授小野寺浩氏(写真右)が世界自然遺産登録に向けての課題や可能性について言及され、Iターン者代表の萩原洋一(写真左下)さんは「伊仙町に来て、魅力を感じてから何かははじめてみたら」と、実体験からくる伊仙町の魅力について、お話をいただきました。



Iターン者代表の萩原洋一さん

さらに、会場には伊仙町出身者も多数来場頂き、東京におけるシンポジウムの開催を喜ぶとともに今後も強力な連携を約束していただきました。また、参加者へのアンケートにおいては67%の人が地方移住へ興味があり、72%の人が二地域居住に興味があるほか、70%の人が伊仙町への移住の関心が高くなったなどの回答があり、今後は結果をさらに詳しく分析して伊仙町生涯活躍のまちづくりに活かしていく必要性を改めて感じました。



今後も伊仙町総合戦略に基づき、地方創生関連交付金を活用し、すべての人が生涯活躍できるまちづくりを推進していきます。

行事 恒久平和の祈りを込めて

「第49回戦艦大和を旗艦とする戦没将士慰霊祭」行われる。



遺族代表 月本 陽藏氏



地区代表 松下 薫氏



大久保 明 伊仙町長

また、式の途中、戦艦大和が沈没したとされる午後2時23分に合わせ、参列者全員による黙とうが捧げられ、3,737柱の御霊のご冥福をお祈りいたしました。最後に、同慰霊祭実行委員長の大久保 明 伊仙町長より、「毎年行われてきた慰霊祭を引き継ぎ、私たち地元の有志により行つてまいります。これまでお世話になりました各地のご遺族、生存者の多大なるご尽力に対しまして、厚く御礼申し上げます。葉があり、来年予定されている50回目の慰霊祭開催に向けて、力強い決意表明がなされました。」

平成28年4月7日(木)の午後1時30分から、「第49回戦艦大和を旗艦とする戦没将士慰霊祭」が犬田布岬でしめやかに行われ、ご遺族をはじめご来賓・徳之島三町行政関係者及び町関係者ら約150名が参列いたしました。

式の冒頭には、西犬田布集落婦人会による鎮魂の舞(あゐ犬田布岬)から始まり、祭文奏上(地区代表 松下 薫 氏)、遺族代表あいさつ(月本 陽藏 氏)が行われ、地区代表の松下氏からは、「私たちも決意を新たにし、自らを犠牲にして護り抜かれた戦没将士の御霊に報いるため、祖国日本を今後一層発展させるよう努力することをお誓い申し上げます」と述べられ、遺族代表の月本氏からは、「修復された慰霊塔が、多くの尊い命を失つて得た、現在の日本の平和に感謝し、戦争のない世界平和を切望する新たな誓いのシンボルとなることを願いたします。」とのあいさつがなされました。



平成 28 年度伊仙町立犬田布・伊仙・面縄幼稚園入園式

平成 28 年 4 月 11 日 (月) に、町内 3 幼稚園 (犬田布・伊仙・面縄) の入園式がそれぞれ挙行されました。入園式では、新しい担任の先生方のお話を熱心に聞く子供たちもいれば、笑顔で受け答える子供たちもいて、とても和やかな雰囲気のなかでの入園式となりました。



(犬田布幼稚園)
入園生 6 名
(男児 4 名・女児 2 名)



(伊仙幼稚園)
入園生 34 名
(男児 17 名・女児 17 名)



(面縄幼稚園)
入園生 32 名
(男児 11 名・女児 21 名)

町内各小・中学校卒業式

面縄中学校

伊仙町内 3 つの中学校 (総勢 63 名) と、6 つの小学校 (総勢 48 名) で卒業式が 3 月 15 日、24 日の両日、それぞれ挙行されました。当日は、卒業生の門出を祝うため、町当局及び地域の方々が多くご臨席されているなかで、学校生活での思い出をともに語り合い、新しいスタートに向けて抱負を述べ、卒業式最後には、全員で校歌を斉唱し、思い出の詰まった学び舎に別れを告げました。



(中学校卒業式の様子)

犬田布中学校



伊仙中学校



(小学校卒業式の様子)



犬田布小学校



阿権小学校



鹿浦小学校



伊仙小学校



面縄小学校



喜念小学校

町内小・中学校入学式

伊仙町内3つの中学校（総勢47名）と、8つの小学校（総勢71名）で入学式が4月6日（水）に挙行了されました。

午前中には、小学校の入学式が一斉に挙行され、新入生においては、真新しい制服に身を包み、少し緊張している様子でしたが、校長先生からは「これからわからないことがあれば、上級生のみなさんに何でも相談して、楽しい学校生活を送ってください。」とのエールが送られ、式の最後には一生懸命に覚えたての校歌を斉唱し、滞りなく終了することができました。

午後には、町内3中学校の入学式が挙行されましたが、保護者の方々への感謝を述べるとともに、将来への夢実現に向けた力強い決意が表れた式となりました。

(中学校入学式の様子)



面縄中学校



犬田布中学校



伊仙中学校

(小学校入学式の様子)



糸木名小学校



犬田布小学校



阿権小学校



馬根小学校



鹿浦小学校



伊仙小学校



面縄小学校



喜念小学校

移住・定住インタビュー

移住のきっかけは

元々鹿児島が好きでした。鹿児島でたまたま島生まれの奥さんに出会い結婚して、鹿児島市内で生活していましたが、あるきっかけで奥さんの故郷に帰る事になり、移住する事になりました。

伊仙町を選んだ理由は？

奥さんの地元が伊仙町でした。どのような町かも知らずに来ましたが、いつか島で子育てをしたいと思っていたし、介護の仕事は島に行っても出来ると思い移住しました。

伊仙町での生活はどうですか？

特に不便な所はないです。家の周りが環境の良い所なので、子供は外でのびのびと友達と遊んでいますし病氣もしなくなりました。私も職場の環境も良く、子供から繋がりが広がり、とても楽しく過ごしています。



小川 翔大さん

Syota Ogawa

- 2011年移住
- 前職、介護士
- 移住元は鹿児島市
- 特別養護老人ホーム勤務 介護士



移住のきっかけは

出身は元々伊仙町喜念で、母親が一人暮らしをしていました。移住は母親の介護のためにしたというところがありますが、ただ移住するのではなく、楽しみながら島の生活をしたと思っています。

地元での生活はどうですか？

楽しみながら島の生活をすることをモットーに、2015年3月に自宅でカフェをスタートさせました。接客業は初めてでしたが、同級生や地域のサポートもあり、経営も軌道に乗りつつあります。また、カフェをすることで、母親とも良い距離感で過ごしています。

移住を希望する人へ

私は母親の介護をするため、移住してきて家族とは離れ離れになり、いつもあったものがないという喪失感のようなものを時より感じることもあります。移住したい方は、ぜひとも家族連れでこられることをお勧めいたします。



杉山 信子さん

Nobuko Sugiyama

- 2014年移住
- 前職はオペレーター
- 移住元は名古屋市



伊仙町役場新規採用職員の紹介

平成 28 年 4 月 1 日付けで 12 名の職員が新たに採用されました。
ここに、町民の皆様へ 2 回に分けてご紹介します。(次回は 7 月号に掲載予定です。)



耕地課

はるやま
春山

だいき
大樹

年齢：24歳

抱負：町民の皆様の役に立てるよう毎日真摯に学び、町民の要望に応えられるよう精一杯頑張ります。よろしくお願いします。



企画課

こまき
小牧

ひとし
均

年齢：32歳

抱負：伊仙町がより元気になるような企画、立案を提案できるように、日々精進して参ります。



経済課

もとおか
元岡

ゆうた
裕太

年齢：27歳

抱負：町民の声を第一に日々努力し、経済課では農家の単収並びに所得向上へ努めていきたいと思っています。

よろしく
お願いします。



保健センター

かはやま
樺山

まみ
真美

年齢：31歳

抱負：未だ経験の浅い私ですが、町民の皆様の健康づくりのお役にたてるように、一生懸命頑張りたいと思いますので、よろしくお願いいたします。



町民生活課

かはしま
樺島

まゆこ
麻優子

年齢：20歳

抱負：町民の方々と共に地域を盛り上げ、成長していける職員になりたいと思います。素直に謙虚に誠実に、業務に取り組んでいきたいと思っています。よろしくお願いいたします。

総務課からのお知らせ

みんなで考えよう！集落の未来と、活力あるまちづくり！

伊仙町「がんばる集落」支援事業補助金のお知らせ

全国的に人口減少と高齢化問題が深刻する今日、この問題は本町においても決して例外ではありません。特に、本町の各集落においては、小規模校区の人口減少が著しく、集落の存続すら危惧されます。

そこで町としては、何とか各集落の駐在員さんと役場職員で構成する「まちづくり協働隊」と連携して、みなさんがお住まいの集落の活性化の一助となるように、今年度から「がんばる集落」支援補助金制度を創設し、集落活性化のための補助金を下記要綱に沿って交付していくことになりました。

つきましては、集落民総出で集落活性化計画を作り、明るい集落の未来を切り開いていただきたいと思います。

○伊仙町「がんばる集落」支援事業補助金の交付にあたって

(目的)

人口減少や高齢化の進展に伴って、集落の活力が低下していることを鑑み、集落自らが行う取り組みに対して、補助金を交付する。

(補助金対象事業)

- (1) 集落を活性化するための計画をつくる事業。(計画策定事業)
- (2) (1)で作られた計画を実施する事業。(計画実施事業)

※計画策定事業においては、1団体あたり2万円以内、計画実施事業においては、1団体あたり1事業を目安として補助金を交付します。その他手続きにあたっての詳細については、下記連絡先までお問い合わせください。

また、集落内で別の補助金を活用している場合、同補助金を充当することはできません。あくまでも、集落として特色ある計画及び事業を推進して頂きたいと思います。

(事業例)

集落共同農場の設置、ごみの分別による集落活動資金確保事業、放置空き家調査事業、集落内移住対策事業、伝統文化保存活用対策事業、観光資源発掘事業、高齢者子ども世代間交流(サロンなど)事業。

(事業申請にあたってのスケジュール)

第1回申請 活性化計画策定後申請：平成28年6月末
活性化計画選定委員会：選定結果を7月末日に各集落へ通知

第2回申請 活性化計画策定後申請：平成28年8月末
活性化計画選定委員会：選定結果を9月末に各集落へ通知



(選定・検証委員会のメンバー)

補助金交付にあたっては、あらかじめ選定委員会を設置し、そのなかで選定します。また、事業完了後においても、費用対効果を検証するために、検証委員会(選定委員会メンバー同様)において検証いたします。

駐在員・観光連盟・地域女性連・教育委員・社会教育委員・民生委員・青年団・企画課長・総務課長

お問い合わせ先

伊仙町役場総務課 伊仙町「がんばる集落」支援事業担当まで

TEL: 0997-86-3111 (内線17)

総務課からのお知らせ

巡回行政相談所開設のお知らせ

毎日の暮らしの中で、行政の仕事などについての苦情や意見・要望はありませんか。行政相談委員は、皆さんの身近な相談相手として、国などの役所の仕事や行政サービス、手続きに関する相談を受け付け、相談者への助言や関係行政機関に対する改善の申し入れなどを行っています。行政相談員が国の行政など役所の仕事について、自宅や電話でも相談に応じています。この度、行政相談週間行事の一環として、下記のとおり行政相談所を開設しますので、お気軽にご相談ください。相談は無料で秘密は固く守られます。

巡回行政相談所

日	時	場 所
平成 28 年 5 月 20 日 (金)	午前 9 時 30 分～午後 12 時	伊仙町コミュニティセンター (東公民館)
	午後 1 時 30 分～午後 4 時 00 分	伊仙町中央公民館 1 階研修室

行政相談委員 安田 千鶴子
お問い合わせ：伊仙町役場 総務課 TEL：86－3111

企画課からのお知らせ



平成 28 年経済センサス活動調査についてのご案内

5/20 (金) より、平成 28 年経済センサス活動調査が実施されます。

センサスとは「全数調査」の訳語で、すべての対象を漏れなく調査することを意味します。

全産業分野の経済活動の状態を把握する大切な統計調査です。

調査員が事業者の皆様のもとへご訪問させていただきますので、ご協力をお願い致します。

インターネットによる回答期限は 6/7 (火) までとなっております。

また、調査票 (紙媒体) による回答も可能です。

詳細は、調査員へお問合せください。

税務課からのお知らせ

税務職員採用試験受験者募集

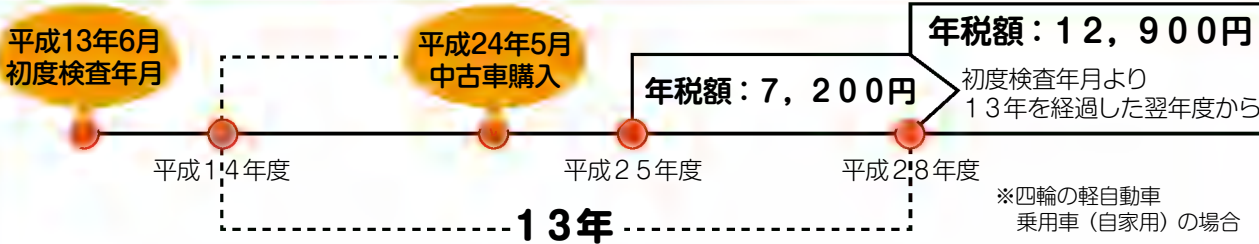
人事院九州事務局と熊本国税局では、税務職員採用試験の受験者を募集します。
申込受付は平成28年6月20日（月）から開始しますので、受験資格等及び受験申込の詳細は、国税庁ホームページの試験概要 **税務職員採用試験** **検索** をご覧いただくか、次のところへお問い合わせください。
なお、申込受付期間及び申込先は、申込方法及び希望する第1次試験地により異なりますので、ご注意ください。

- 1 人事院九州事務局（電話092-431-7733）
- 2 熊本国税局人事第二課試験研修係（電話096-354-6171）内線6046
- 3 大島税務署（電話0997-52-4334）

平成28年度より軽自動車税の税率が変更になります

国の税制改正において、軽自動車と小型の普通自動車間の税負担水準格差を見直すため、軽自動車税の標準税率引上げ等が決められました。大島地区の市町村においても、国の改正を踏まえた市町村の条例改正に伴い、軽自動車税の税率を変更します。
特に四輪の軽自動車の場合、初度検査年月（車検証記載）によって、税率が異なりますので、ご不明な点があれば、軽自動車を登録している役場税務課にご確認ください。

具体例：平成24年5月購入の中古車を所有している場合（初度検査年月 平成13年6月）



四輪の軽自動車

車種区分		年税額		
		現行	平成27年4月1日以降に新車登録した車両	新車登録から13年を経過した車両
乗用車	自家用	7,200円	10,800円	12,900円
	営業用	5,500円	6,900円	8,200円
貨物車	自家用	4,000円	5,000円	6,000円
	営業用	3,000円	3,800円	4,500円

原付・軽二輪・小型二輪 等

車両区分	総排気量 (区分・用途)	年税額	
		現行	平成28年度から
原動機付自転車	50cc以下	1,000円	2,000円
	50cc超～90cc以下	1,200円	2,000円
	90cc超～125cc以下	1,600円	2,400円
	(ミニカー)	2,500円	3,700円
軽二輪	125cc超～250cc以下	2,400円	3,600円
小型二輪	250cc超	4,000円	6,000円
小型特殊自動車	(農耕用)	1,600円	2,400円
	(その他)	4,700円	5,900円

※ 新車登録日は、車検証の「初度検査年月日」をご確認ください。
※ 初度検査年月が平成27年3月までの車両は、初度検査後13年を経過するまで旧税率のままです。
(原付・軽二輪・小型二輪等は平成28年度より新税率が適用されます。)

保健センターからのお知らせ

臨床心理士による「こころの相談会」

「どこに相談すればいいのかわからない」「どうしたらいいかわからない」と1人で悩んでいませんか？

あなたが悩んでいる様々な相談について、一緒に考えましょう。
ご家族の方の相談にも応じます。

- 相談は“無料”秘密は厳守します。
- 眠れない・気分が落ち込んでいるなど、精神的な問題を抱えている方
- 家庭問題（ひきこもり、不登校、夫婦・嫁姑・子どもとの家庭問題）
- 人付き合いが苦手、職場（学校）の人間関係について
- 依存症（お酒、買い物、ギャンブルなど）で困っている
- じっくり自分の悩みを聞いてほしい など

日時

平成 28 年 5 月 30 日（月）10：00～17：00

平成 28 年 5 月 31 日（火）9：00～16：00

（相談時間はお1人様1時間です。）

場所 伊仙町保健センター（徳之島交流ひろば ほーらい館）

お申込み・お問い合わせ：伊仙町保健センター ☎ 86－2121

※お申込み締め切りは平成 28 年 5 月 27 日（金）17：00 まで 対象者は伊仙町在住の方としています。



環境課からのお知らせ

伊仙町環境課 86－3111
徳之島保健所 82－0149

犬の放し飼いはぜったいダメ！！

最近、犬の放し飼い等による苦情が増えています。また、4月になると新一年生が入学し初めての通学など不慣れなことによる道路上での犬による事故発生の可能性があります。

散歩中等及び夜間を含めた犬の放し飼いは絶対に止めましょう。

近所に迷惑がかかります

近所のお宅の庭先で糞をしたり、花壇を荒らしたり・・・知らないところで大迷惑をかけているかもしれません。

望まれない命を生み出しているかも・・・

もし発情したメス犬のところに放し飼いのオスが来たらどうなるでしょう？予定外の妊娠により、幼い命が路頭に迷う危険があります。

事故が起こるかも！

犬を放して自由にさせていると、自分の知らないところで誰かに咬みついてしまうかもしれません。放れた状態で犬が人を咬んだ場合、飼い主には重大な責任が問われることとなります。犬の本能に“咬む”という行為が残っている以上、どんなにおとなしい犬でもふとした拍子（驚いたとき、恐怖を感じたときなど）に人を咬んでしまうことは十分に考えられるのです。

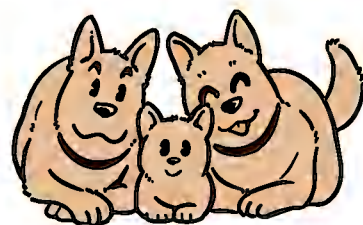
「我が家の犬は大丈夫」・・・そんなことは絶対にありません！！

犬自身にとっても危険がいっぱい

自由に外を出歩いている犬はどこでどんな病気をもらってくるかわかりません。人獣共通感染症といって、犬から人にうつる病気もあります。また、夜間などでは交通事故の可能性もあります。

犬はどんなときもきちんとつないで飼い、家の敷地からでることのないようにしましょう。

※放れた状態の犬は狂犬病予防法や県動物愛護条例により捕獲することがあります。



環境課からのお知らせ

世界自然遺産登録に向けたノラネコのTNR事業にご協力をお願いします。

現在徳之島では、野生化したネコ(ノネコ)が、アマミノクロウサギやケナガネズミ、トクノシマトゲネズミなどを食べてしまう問題が深刻化しています。

平成28年度は、ノネコの元となりうるノラネコについて、徳之島全域で順次TNR事業を実施します。その際に集落内や道路沿いに、ネコ捕獲用のワナを設置しますので、ご理解とご協力ををお願いします。

TNR 事業とは

①ワナの設置 ⇨ ②ネコ捕獲 ⇨ ③避妊・去勢手術＋耳カット ⇨ ④捕獲場所へ放獣



耳先が切れていない
ノラネコを見かけたら、
ぜひご連絡下さい。



耳先が切れている
ネコは手術済です

野外にいる「首輪のないネコ」はノラネコと見なし、捕獲されて避妊去勢手術がなされるので、なるべくネコは室内に入れるようにして下さい。

飼い猫は条例により、各町で登録し、首輪・鑑札を装着することが、義務づけられています。



<お問合せ先>

徳之島三町ネコ対策協議会

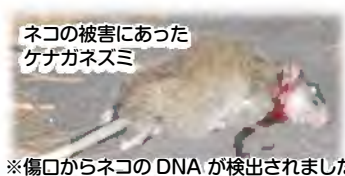
徳之島町 82-1111(住民生活課) 伊仙町 86-3111(環境課) 天城町 85-5331(町民生活課)

ネコの新しい飼い主を募集しています！

徳之島はアマミノクロウサギをはじめとした貴重な生き物達の重要な生息地として、世界自然遺産の候補地に選ばれています。しかし、野生化したネコ『ノネコ』がアマミノクロウサギやケナガネズミ、トクノシマトゲネズミなどをおそう問題が頻発しています。



アマミノクロウサギを
くわえるネコ



ネコの被害にあった
ケナガネズミ

※傷口からネコの DNA が検出されました。



ネコの被害にあった
トクノシマトゲネズミ

希少な野生動物を守るため、本来山には生息していなかったはずのネコを捕まえて飼育し、人に馴れさせた上で譲渡する取り組みがはじまっています。

ネコの新しい飼い主になってくださる方を募集中です！



希望される方は
お気軽にお問い合わせ
ください。

【飼い主さんの条件】

- ネコが天寿を全うするまで責任を持って飼ってくださる方
- 必ず室内で飼ってくださる方

【お渡しするネコについて】

- ※お渡しするネコは全て避妊・去勢手術済、3種混合ワクチン接種済です。
- ※徳之島3町飼い猫条例により、役場での飼い猫登録が義務づけられています。(登録料500円)
- ※徳之島動物病院(TEL:82-1012)にてマイクロチップを無料で装着できます。

飼い主募集に関する担当窓口

天城町役場企画課 TEL: 85-5171

島民1人ひとりが問題意識を持ち、ネコを適切に飼育・管理することが世界自然遺産登録に繋がります。

※飼いきれなくなった猫・犬を遺棄することは犯罪です。(100万円以下の罰金。)

社会教育課からのお知らせ

平成27年度いせん親子チャレンジ教室の様子(8月~3月分)

ウミガメ観察(8月3日)

ウミガメの産卵・ふ化の時期だったので、観察を行いました。自然のものなので確実に見えるわけではないという条件のなか、多くの参加希望があり、今年はふ化を観察することができた。



ふ化の様子を近くで静かに見守る参加者。

カムイヤキの森探検(11月21日)

カムイヤキの森を探検し、窠跡を見学した。親子で森を探検する機会が少ない現在、参加した親子からは新鮮で楽しかった等の感想が多かった。



カムイヤキの欠片を手に説明を受けました。

かけっこ塾(9月5日)

運動会シーズンに合わせかけっこ塾を開催。鹿児島島のNPO法人SCCの太田さんを講師に迎え、走法などについて様々な指導をしてもらいました。陸上専門の方に教えてもらえるという機会は少ないので、参加者は一生懸命取り組んでいました。



講師の指導のもと、一生懸命、練習に取り組みました。

クリスマスリースを作ろう!(12月19日)

クリスマス前に、家族でオリジナルのリース作りを行った。初の試みだったが、家族で1つの作成だったので、どのような飾り付けをするかなど親子での会話も弾んでいる様子だった。



飾り付けは完成形を想像しながら作成する親子。

町内文化財めぐり(10月17日)

子ども達に伊仙町の文化についても学んでもらうため、バスで町内の主な文化財を巡った。歴史民俗資料館の学芸員が案内・説明を行った。参加者からは、こういう機会では訪れない、こんな場所があると初めて知ったなどの感想があった。



学芸員から詳しい説明を真剣に聞く参加者の様子。

バルーンアート(3月19日)

バルーンで親子で徳之島に住む動物の作成を行った。初めてバルーンをひねったりするので、参加者は割れないか緊張しながら行っている様子だった。



講師の説明を聞きながら親子で楽しんでいる参加者。



本事業は、平成27年度宝くじ助成金で実施しました。

平成28年度も家族の絆を深め、青少年の健全育成を目的とした楽しい「親子チャレンジ教室2016」を実施します。

詳しくは社会教育課 TEL: 86-4653までお問い合わせください。

伊仙町の皆さんへ がんどック特別割引制度のお知らせ

有料
広告

PET（ペット）で全身のがんを検査しましょう。

厚地記念クリニック（鹿児島市）ではがんどック受診にあたり、離島の皆さんの交通費、宿泊費等の負担軽減を目的に受診科の特別割引を実施しています。

- ◎ 割引対象 伊仙町民の皆さん
- ◎ 期間を1年間延長し、平成30年3月31日までとします。
- ◎ 特別割引額 4万2千円（団体割引2万円＋フェリー往復・1泊料金相当額2万2千円）

国民健康保険加入者の方へ朗報＝受診料に町の助成が開始されます。

◎平成28年4月1日より国保加入の方へ「PET がんどック受診」の際に町より3万円の助成が開始されます。（詳しくは町へお問い合わせ下さい）

◎受診料について

受診コース	通常料金	皆さんの受診料	国保の方は町の規定内で更に3万円の助成があります。
PET ドックコース	12万円	7万8千円	
PET/CT ドックコース	14万円	9万8千円	

※奄美ゆいセンター会員は別途1万円の助成があります。（ゆいセンター事務局へ申込が必要です）
がん対策の決め手は、早期発見・早期治療につきます。早めのがんどックをお薦めします。

お問い合わせ・申込先：**国保の方**▶伊仙町役場 保健福祉課 TEL：0997－86－3111
国保以外の方▶厚地記念クリニック（鹿児島市照国町12-1）TEL：099－226－8871



PET/CT カメラ



PET/CT 画像

町民生活課からのお知らせ

国民年金保険料【後納制度】について

過去5年以内に納め忘れた国民年金保険料を納付することで将来の年金額を増やすことができる【後納制度】が、平成27年10月から3年間限りの特例として開始されました。

なお、老齢基礎年金を受給している方などは、後納制度の利用はできません。

後納制度を利用するには、申し込みが必要です。

詳しくは、「国民年金保険料専用ダイヤル」（0570-011-050）または、奄美大島年金事務所へお問い合わせください。また、町民生活課国民年金係でも受付できます。

お問い合わせ先

日本年金機構 奄美大島年金事務所 0997-52-4341

伊仙町役場 町民生活課 国民年金係 田島 86-3111（内線52番）

予約制による年金相談のご案内

予約申し込み方法

年金相談の予約は一か月前（5月23日）からお電話又は、役場年金窓口でお受けいたします。

ご予約受付の際には、相談者及び配偶者氏名、基礎年金番号、電話番号、相談内容等について確認させていただきます。

相談日・予約時間帯

平成28年6月22日（水）13：00～16：30

相談場所（伊仙町中央公民館）1階 研修室

相談内容 国民年金・厚生年金等の年金受給に関すること

年金相談にお越しの際には、年金手帳（基礎年金番号通知書）、年金証書、振込通知書などの他、相談本人であることを確認できるものを持参のうえ予約時間までにお越し下さい。

※代理の方がご相談に来られる際には、委任状と来られる方の身分証明（運転免許証など顔写真があるもの）が必要となります。

※ご都合により来所できない場合は、事前にご連絡をお願いいたします。

お問い合わせ先

伊仙町役場 町民生活課 国民年金係 田島 86-3111内線（52番）



伊仙町商工会の窓



安心・安全・栄養価の高い
徳之島産のヨモギを
たっぷり入れて作っております。

全国発送承ります

- ふくれ菓子 ●よもぎもち
- 型菓子 ●紅白餅
- 他 冠婚葬祭用のおもち

ふくもと製菓

☎ 0997-86-2028
携帯 090-8763-9558

伊仙小学校

県道

役場

ココ



居食屋 信吾

☎ 0997-86-2945

串焼
居食屋
信吾
鍋
086-2945

串焼きと刺身のうまい

3000円2時間半コース好評中

◎新鮮食材多数ご用意いたしております◎

面縄港入口

県道

伊仙方面→

←亀津方面

ココ

子宝日本一の町 わが町のアイドル

まつおか
松岡まちか
真慈くん
(1歳)

男前な まちかさん。
好奇心旺盛な心そのままに、
みんなに愛される人になってね。

えいき
永喜ゆうあ
優吾くん
(2歳)

やんちゃ盛りの中うあくん。
おねえちゃんとおにいちゃんに
囲まれて、これから仲良くね。

わが町のアイドル募集！

本紙では「わが町のアイドル」と題して、わが家の
かわいい子どもの写真を掲載します。

毎月10日までに住所・氏名(子どもと保護者)・電
話番号・簡単なPR文を添えて、写真を役場企画課広
報係までお持ち下さい。

問い合わせ先 伊仙町役場企画課 86-3111 (内24)

人口の動き

(28年3月31日現在)

総人口=6,897	出 生=5
男 =3,480	死 亡=13
女 =3,417	転 入=51
世 帯=3,523	転 出=94

香典返し

○西伊仙西 益岡 稔さん(亡益岡 欄子さん) より金一封	○西伊仙西 義山 昭夫さん(亡義山 うめさん) より金一封
○東伊仙東 芳澤 廣嘉さん(亡芳澤 秀光さん) より金一封	○中伊仙西 義山 昭夫さん(亡義山 うめさん) より金一封
○西大田布 義山 妙子さん(亡中林ヨシゑさん) より金一封	○中伊仙西 義山 昭夫さん(亡義山 うめさん) より金一封
○大田布 實 進介さん(亡實 トミさん) より金一封	○亀 津 亀澤 チヨさん(亡亀澤 新吉さん) より金一封
○馬 根 有馬喜久美さん(亡有馬 徳壽さん) より金一封	○中伊仙東 杉山 幸市さん(亡杉山 幸子さん) より金一封

※社会福祉協議会受付

戸籍の窓

お誕生おめでとう (敬称略)

出生児 保護者 集落名

野島 悠生(ゆうせい)	幸一郎 小島
松山 蓮寿郎(れんじゅうろう)	勝美 中伊仙西
宮永 大慎(だいしん)	次人 検福
田代 湊人(みなと)	篤史 中伊仙西
村田 健成(けんせい)	力男 河地

ご結婚おめでとう (敬称略)

氏名 出身地

坪金 靖子	福井県
榮山 裕子	福岡県
幸山 弘樹	西目手久
山根 唯	福岡県

